



水道が整備される前の寄居町  
寄居町広報（昭和35年3月発行）

▲「うわっ！ お水がこんなに」。自衛隊の出動を伝える記事

# 水道のはなし ～水を大切に！～

問い合わせ／上下水道課（☎581・2121内線263）へ。

## 寄居町の水道

今から60年前の昭和30年に旧寄居町と折原村、鉢形村、男衾村および用土村が合併して現在の寄居町が誕生しました。昭和33年に上下水道事業の認可を受けた後、象ヶ鼻浄水場、寄居取水塔および常木配水池の建設と水道管の整備を行い、昭和36年から市街地を中心とする給水を開始しました。

その後、事業認可区域を拡張し、象ヶ鼻浄水場や常木配水池の増築、新たな配水池等の建設を進め、荒川北側の地域へと給水範囲を広げていきました。さらに、荒川南側への給水拠点として折原浄水場・金尾浄水場・風布浄水場を建設し、昭和62年には事業認可を受けた給水区域全域への給水ができるようになりました。

また、県営水道の受水と配水を行う寄居配水場および男衾配水場をそれぞれ平成4年、平成18年に建設し、人口の増加や企業の進出、生活形態の多様化による水需要の増加に対応してきました。

## これからの水道

昭和36年から開始した水道の給水によって、安心して飲める飲料水が確保できるようになったほか、炊事や洗濯の生活用水、消火活動や公衆浴場等に使用する水等、安定した水の利用が可能になり、住民の皆さんの生活全般にわたって安全とゆとりをもたらしました。

給水開始からすでに54年が経ち、象ヶ鼻浄水場と関連施設の更新時期を迎えようとしています。水道施設の建設には莫大な費用がかかる一方で、少子化による人口減少が水需要の低下につながり、今後の料金収入に影響を与えるものと考えられます。これからの水道のあり方について見直す時期に来ているといえます。

国では、人口減少や東日本大震災の経験を踏まえ、平成25年に「新水道ビジョン」を策定しました。町でも、国の「新水道ビジョン」が掲げる「安心」、「強靱」、「持続」の実現に向け、今年度を目標に「寄居町水道事業ビジョン」を策定することになりました。

## 水道水がくままで

水道の水源として、多くは川の水や地下水等が利用されていますが、町では川の水を浄水処理して水道水を作っています。水道水が家庭に届くまでの流れは、下のイラストをご覧ください。町では、いつでも安全・安心な水を飲んでいただけるよう定期的に水質検査を行っています。水質検査の結果を、町の公式ホームページ（<http://www.town.yori.satama.jp/soshiki/18/>）に掲載していますのでご覧ください。

## 水道水を おいしく飲む方法

自宅で水道水をおいしく飲むための手軽な方法は「冷やす」ことです。冷蔵庫で冷やすことにより、消毒用の塩素のにおいがあまり気にならなくなりやすくなります。それでもおいしく飲める方は、5分ほど煮沸させた水を冷やすと、一層おいしくいただけます。ただし、煮沸させた水は塩素の消

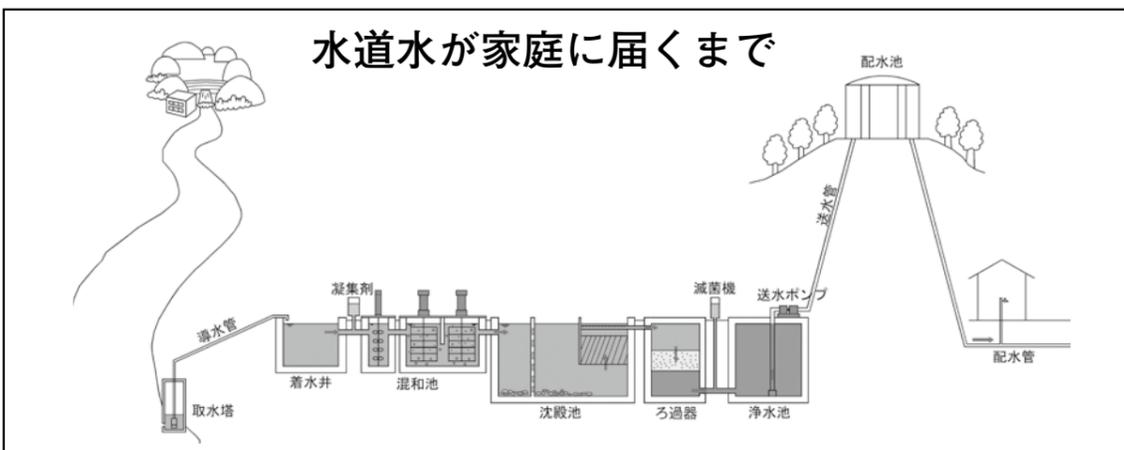


毒効果がなくなり、空気中の細菌が繁殖しやすくなるので、なるべく早めに飲みきるようにしましょう。

## 節水をお願い

地球にはおよそ14億kmの水があるといわれています。しかし、そのうちの約97%は海水であり、淡水は約3%しかありません。淡水の約70%は南極と北極の水として存在しており、地下水を含め川の水や湖、沼など、私たちが生活に利用できる淡水は地球上の水のわずか0.8%しかありません。水道水はその貴重な資源である淡水を利用していただきます。今後、水道水を大切にお願いします。

## 水道水が家庭に届くまで



- 取水塔（しゅすいとう）
- 着水井（ちゃくすいせい）
- 混和池（こんわち）
- 沈殿池（ちんでんち）
- ろ過器（ろかき）
- 減菌機（めつきんき）
- 浄水池（じょうすいち）
- 配水池（はいすいち）

川の水を取り入れ、取水ポンプで浄水場へ水を送ります。浄水場の入口にあり、水の量や水位を調整します。水に凝集剤を混ぜ合わせて細かいごみを沈めやすくします。混和池で固められた細かいごみを沈めて取り除きます。ろ過専用の砂でこして水をきれいにします。ろ過専用の塩素で消毒して水を飲めるようにします。水道水を溜めて配水池へ送る水の量を調節します。水道水を溜めておくタンクで、ここから配水管を通して皆さんの所へ送られます。